

平成29年産 葉たばこの販売を終えて 【総括】

平成29年12月1日
宮崎県たばこ耕作組合

平成29年作は、収量確保を最重点課題として生産目標を達成すべく「目指す葉たばこづくり」特に「根づくりに着目した耕作技術の実践」を念頭に取り組んできた。結果としては、収量については、目標を達成することができたものの品質において目標を僅かに達成できなかった。本年作においても、地域差、個人差の大きい結果となった。

◆平成29年作 目指す葉たばこづくり

- ★ 基本耕作技術を「適期に・確実に」実行し、気象に左右されにくい「力強い葉たばこ」づくりを！
- ★ 収穫葉数17～18枚程度の早作タイプの充実した作柄で、肥料切れの良いものを！

◆平成29年産 生産目標

10a当重量	250kg
1kg当代金	2,000円
Aタイプ生出率	750‰
10a当代金	50万円

◆平成29年産 実績

10a当重量	251kg
1kg当代金	1,998円
Aタイプ生出率	719‰
10a当代金	501,056円

【作柄概況】

(準備期)

- ・年内の周期的降雨の影響で主に水田作で準備作業が遅れ気味となったが、以降の天候回復に伴い概ね期間内に作業は実施された。

(苗床期)

- ・期間を通して気温は平年並みからやや低めで推移したものの、日照時間に恵まれ、苗の生育は比較的良好で概ね根張りの良い健苗が育成された。
- ・移植は平年並みに実施された。

(本畑期)

- ・移植後は好天に恵まれたものの、3月の気温低下の影響で初期生育はやや停滞気味となったが、4月以降比較的好天に恵まれ、生育は回復した。
(平年に比べて最盛で土寄1日遅れ、心止3日早進)
- ・作柄は、移植後の気温低下の影響で一部に不揃いの物やほ地間のバラツキが見受けられたが、概ね標準作柄が形成された。
- ・3月の気温低下の影響で着葉数は平年より少ない傾向であった。
- ・心止は最盛で平年より3日早進されたが、例年より生育差が大きく、心止期間は長引いた。
- ・概ね適正な心止がなされていたが、着葉数が例年に比べて少なかったこともあり、一部に浅い物が見受けられた。
- ・病害の発生は昨年より減少したが、未だに主要病害の発生は多く、特に収穫後半の立枯病の拡散が激しかった。

(収穫期)

- ・旧下葉収穫は心止、摘芽作業が重なり、収穫着手は平年並みとなった。
- ・横かぎ収穫は5月の干ばつの影響で中葉系の色落ちがやや早い傾向となったが、例年に比べて取遅れも少なく、概ね順調に行われた。

(収穫期)

- ・梅雨入り以降6月中旬から下旬にかけて曇雨天が続き、わずかに若返り傾向となったが、その後は好天に恵まれ、成熟は概ね順調に推移し、収穫最盛で平年より3日早進された。
- ・梅雨明け以降の高温、強日射による日焼け、消耗が懸念されたが、比較的枯上がりが少なく、収量確保に繋がった。
- ・期間を通して乾燥歩留りが例年より高い傾向となり、また病災害による減収も比較的少なかったこともあり、目標収量は確保された。

(乾葉性状)

- ・中葉系は比較的日照時間に恵まれたこともあり、概ね良質な物が生産されたが、一部に葉元モロメの物や、上位中葉から合葉にかけて肥料切れの悪い物や熟度不足の物が見受けられた。早期販売結果は個人差が大きい結果となったが、収穫幅の広い包に熟度不足が目立った。
- ・本葉系については、一部に若返りに伴う熟度不足、汚れ、クスマの物や肥料切れの悪い物、梅雨明け後の高温強日射に伴う日焼け、クスマ、消耗による充不、薄肉傾向の物が見受けられた。また水田作を中心に根張り不足に伴う小柄充不の物が散見された。

◆比較的収量が確保された主な要因：たばこの地上部(作柄)と地下部(根群)のバランスが比較的良かったと推測される。

- ①年内の周期的降雨の影響により水田作ではほ地準備作業に苦勞したものの、年明け以降好天に恵まれ比較的良い条件で畦立作業を行うことができた。
- ②根の健全化に取り組んだことで根群が発達し、品種本来の作となり、後半の消耗が少なかった。
- ③上記①、②による根群の健全化とあいまって収穫期に比較的好天に恵まれたため、摘芽、防除、収穫等の作業が概ね順調に実施され、収量確保に繋がった。

【本年の作柄概況を踏まえた来年作への取り組み】

- ◆基本耕作技術の確実な実践と定着
※基本耕作技術を「適期に、確実に」実践できたかを振り返り、次年作に向けた対策を考え実行する。
- ◆たばこの作柄と地下部(根群)のバランスを意識し、根作りに着目した栽培体系の確立と定着
- ◆完全収穫に向けた適期収穫の確実な実施と定着
(1回期・総かぎの開始時期、共同乾燥施設の稼働スケジュールの検討)

【目指す作柄】



基本耕作技術				
土づくり	標準作柄の形成	病害対策	収量の確保	商品意識
・適地の早期確保	・施肥、畦立の適正	・耕種的防除の徹底	・葉分け、タイプ区分の徹底	・包内斉度
・良質堆肥の施用	・健苗の育成	・効果的な薬剤使用	・横かぎ収穫の徹底	・水分管理
・ほ地管理	・早作早進		・総かぎ開始時期の見極め	・ピッキング
・土壌成分バランスの保持	・適正な心止		・クヅリ取りの徹底	・原料信頼性